

【原著論文】

## 子どもの“からだのおかしさ”に関する保育・教育現場の実感

### — 「子どものからだの調査 2010」の結果を基に—

阿部茂明<sup>1)</sup>, 野井真吾<sup>2)</sup>, 中島綾子<sup>3)</sup>, 下里彩香<sup>4)</sup>, 鹿野晶子<sup>5)</sup>,  
七戸 藍<sup>1)</sup>, 正木健雄<sup>6)</sup>

<sup>1)</sup> 日本体育大学, <sup>2)</sup> 埼玉大学教育学部, <sup>3)</sup> 文教大学附属小学校,

<sup>4)</sup> 杉並区立杉並第一小学校, 埼玉大学大学院教育学研究科,

<sup>5)</sup> 横浜女子短期大学, <sup>6)</sup> 日本体育大学名誉教授

## The actual feelings of nursery and educational field against the “abnormalities” in physical function among the Japanese children: based on results of a questionnaire on the teachers’ or the yogo teachers’ actual feeling in 2010

Shigeaki ABE, Shingo NOI, Ryoko NAKAJIMA, Saika SHIMOSATO, Akiko SHIKANO,  
Ai SHICHINOHE and Takeo MASAKI

**Abstract:** We continued investigating the actual feeling about the “abnormalities in physical function” of Japanese children by the teacher and/or yogo teacher in the spot of childcare/education in an interval about 5 years from 1978. This project was enforced because the last research was before just 5 years. The distributed questionnaire was 1,444, and the collected number was 789 (54.6%). Numbers of question for preschool and kindergarten were 56 items, 72 items for elementary, junior high and high school. The results were summarized as follows; 1) It was guessed that the progress of “abnormalities in physical function” among the children was not being stopped yet. 2) The actual feeling that children who said “I was tired” increased recently was ranked worst 5 in all educational stages. It was same about allergic children. Therefore, we keenly realized the depth and persistence of those issues. 3) On the other hand, in junior high school and high school stages, it was newly confirmed that there were many actual feelings such as “depression tendency” or “not to be able to sleep at night.” 4) Furthermore, it was shown that the answer to “be increasing recently” was decrease. This fact let us estimate that “such children did not increase but they were without changing.” 5) These finding suggest that reconsidering too comfortable living with convenience is necessary. It is suggested that promise of the outside play, daylight and dark environment at night is necessary too. Additionally, discussion in the many aspects based on the results of present study is expected.

(Received: June 18, 2011 Accepted: August 11, 2011)

**Key words:** actual feeling investigation, poor physical condition, developmental disorders of physical function, deep-seated actual feelings, new actual feelings

キーワード：実感調査, からだの不調, からだの発達不全, 根強い実感, 新たな実感

### 1. 本調査の経緯と本研究の目的

われわれは、保育・教育現場で実感されている子どものからだのおかしさを1978年からほぼ5年ごとに調査してきた<sup>1-5)</sup>。いわゆる「実感調査」と称される本調査の主な経緯は、以下の如くである。

最初の実感調査は、NHK 特集「警告！こどものか

らは蝕まれている」(1978年10月9日放映)を製作するために1978年に行われた。日本体育大学体育研究所(当時・正木所長)に、NHKから相談があって、体育研究所が協力することになったのがきっかけである。調査は、その項目づくりから開始された。この作業では、当時の体育研究所が5大新聞から文化・教育・体育・保育等に関する記事を切り抜きB4版の用紙に

貼り付けて編集していた『体育日報』、ならびに、関連の書籍、雑誌等から、子どものからだに関して気になる記事や記録を蒐集し、43項目の子どもの「からだのおかしさ」で構成される調査用紙が完成した。また、調査結果が放映された上記の番組をきっかけに、子どものからだと心への国民的関心が急速に高まり、子どものからだと心の変化を正確に捉えて、確かな実践の方途を探る議論の場が社会的に要望された。翌1979年に「子どものからだと心・連絡会議」が設立されたのはそのためである。

さらに、この調査に刺激を受けて、翌1979年9～10月には、社会福祉法人全国社会福祉協議会全国保育協議会が保育者を対象に実感および実数調査を実施した。また、1984年2月には、NHK社会教育部が全国の養護教諭と都内の学校医（内科・小児科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科）および整形外科医を対象に実感調査を実施し、その結果を基に、NHK特集「シリーズ・子どもからの赤信号第1回「からだに何かは起きている」」（1984年4月29日）を製作、放映した。さらに、同年9～10月、社会福祉法人全国社会福祉協議会全国保育協議会は、前述の1979年調査から5年が経過したことを受けて、再度、同様の調査を実施した。

以上のように、この時期までの調査は、種々の団体がそれを企画し、われわれが協力もしくは実施するスタイルで進められてきた。しかしながら、1978年調査から約10年間が、1984年調査から約5年間が経過したことを受け、1990年3月以降は5年ごとにわれわれがこの調査を企画、実施することになっていった。

1990年調査では、その間の各種研究会やメディア等での報告を再検討し、必要な事象を調査項目に追加することにした。併せて、小学校以前の「乳幼児用」の調査（40項目）と「児童・生徒用」の調査（53項目）とは、別の調査用紙でそれぞれの実感を尋ねる形式にした。1995年3月に実施された調査では、1990年調査の回答状況とその後問題状況を考慮して、「平熱37度以上の子」と「胸郭異常の子」の2項目を調査項目に追加し、乳幼児用は42項目、児童・生徒用は55項目になった。同様に、2000年1～3月に実施された調査でも、乳幼児用として「保育中、じっとしていない子」「異常と思われる痩身（やせ）の子」の2項目を、児童・生徒用として「授業中、じっとしていない子」「なんとなく保健室にくる子」「異常と思われる痩身（やせ）の子」「保健室登校の子」の4項目をそれぞれ追加して、44項目、59項目に、2005年2～3月に実施された調査では、乳幼児用、児童・生徒用とも、「つま先立ち歩きの子」「手足が冷たい子」「口で呼吸している子」「発音の仕方が気になる子」「体が硬い子」「自閉的な傾向がある子」「床にすぐねっ転がる子」の7項目を

追加して、それぞれ51項目、66項目になった。

これらの実感調査の結果は、子どものからだの変化を捉えるのに有効であり、見当違いの対策を正し、からだの変化にかみ合った適切な対策を立てるのに非常に役立つ<sup>6-8)</sup>、とわれわれは考えている。

そこで本研究では、前回（2005年）の調査からすでに5年を経過し、定時調査の時期になったので、現場での実感について継続調査を行い、子どものからだのおかしさが現在どのように推移しているかを明らかにすることを目的とした。

## 2. 方 法

### 1) 調査項目

調査内容は、これまでの調査同様、「からだの活動性」、「からだの防御性」、「直立姿勢や動作」、「疾病・けが・その他」の4群とした。本調査では、前回調査<sup>9)</sup>における回答率の状況とその後の子どものからだの問題状況とを考慮して、乳幼児用の調査では5項目（「絶えず何かをいじっている子」、「朝、なかなか起きられない子」、「夜、なかなか眠れない子」、「あまり水分をとらない子」、「あまりトイレに行かない子」）を増やして56項目、児童・生徒用の調査では6項目（「絶えず何かをいじっている子」、「朝、なかなか起きられない子」、「夜、なかなか眠れない子」、「うつ傾向がある子」、「あまり水分をとらない子」、「あまりトイレに行かない子」）を増やして72項目とした。また、調査票の最終頁には、これまで同様、自由記述欄も設けた。

なお、われわれは、質問項目の選択回答の内、“ない”の回答率が100%になったとき、もしくは、せめてそれに近い値が示されたときに、その質問項目を除外することにしてはいるが、前回調査の結果、それに該当する質問項目はなかった。

### 2) 調査対象および調査期間

本研究における調査対象数ならびに有効回収数、有効回答率は表1の通りであり、調査は2010年2～3月の期間に実施された。なお、調査対象は都道府県ごとに系統抽出して選定された。

表1 調査対象数と有効回収数ならびに有効回収率

	対象数	有効回収数	有効回収率 (%)
保育所	190	90	47.4
幼稚園	240	105	43.8
小学校	596	329	55.2
中学校	317	210	66.2
高等学校	101	55	54.5
合計	1,444	789	54.6

本研究では、対象保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の所長、園長、学校長もしくは養護教諭に対して、郵送により調査用紙を配布し、回答後、郵送によりそれを回収した。回答に際しては、保育者および教育者が日頃から子どもを観察している中で抱えている各事象に対する実感を、“最近増えている”、“変わらない”、“減っている”、“いない”、“わからない”の5回答肢から選択回答してもらった。

### 3) 分析方法

得られた回答は、各事象に対する選択肢の回答率を算出した後、施設・学校段階別に“最近増えている”と回答した者が多い10項目（以下、「ワースト10」と略す）を導き、全国的に比較できる過去の調査結果<sup>1-5)</sup>と対応させて観察した。次に、各施設・学校段階における“最近増えている”という実感・ワースト10の事象から予想される問題（実体）と関連するからだの機能をデルファイ法によって導いた。さらに、“最近増えている”と“変わらない”との回答率を合算して、“そのような事象が存在する（以下、「いる」と略す）”と判断できる実感の割合も算出した。

## 3. 結 果

1) 本調査における施設・学校段階別の各事象に対する選択肢の全回答率は、結果1～5（文末参照）に示した通りである。

2) これらの結果から各施設・学校段階ごとの“最近増えている”という実感・ワースト10を導き、過去の調査結果（1978年あるいは1979年、1990年、1995年、2000年、2005年）と対応させて示したのが表2である。この表からわかるように、今回の調査（2010年調査）でも、すべての施設・学校段階に共通して「アレルギー」と「すぐ「疲れた」という」がワースト5内にランクされた。

3) 今回の調査で新たに加えた項目の“最近増えている”という実感の回答状況は、以下の通りである。（Qの次の番号は、乳幼児用調査項目/児童・生徒用調査項目番号を表す）

Q4/5「絶えず何かをいじっている子」

保育所	14位	36.7%
幼稚園	16位	37.1%
小学校	6位	62.6%
中学校	21位	44.8%
高等学校	25位	32.7%

Q8/11「朝、なかなか起きられない子」

保育所	6位	55.6%
-----	----	-------

幼稚園	11位	45.7%
小学校	21位	46.2%
中学校	17位	53.8%
高等学校	16位	47.3%

Q9/12「夜、なかなか眠れない子」

保育所	7位	53.3%
幼稚園	16位	37.1%
小学校	10位	57.4%
中学校	4位	69.0%
高等学校	4位	67.3%

Q- /57「うつの傾向がある子」

小学校	37位	26.1%
中学校	7位	62.9%
高等学校	2位	72.7%

Q55/71「あまり水分をとらない子」

保育所	27位	21.1%
幼稚園	33位	16.2%
小学校	44位	21.0%
中学校	31位	33.8%
高等学校	22位	34.5%

Q56/72「あまりトイレに行かない子」

保育所	42位	8.9%
幼稚園	38位	14.3%
小学校	55位	17.3%
中学校	32位	32.4%
高等学校	35位	27.3%

4) 表3には、各施設・学校段階における“最近増えている”という実感・ワースト10の事象から予想される問題（実体）と関連するからだの機能を示した。この表が示すように、予想される問題と関連するからだの機能の欄では、前頭葉機能（12項目）や自律神経機能（9項目）、さらには、内分泌機能、睡眠・覚醒機能、筋機能（いずれも4項目）に比較的多くのチェックを確認することができた。

5) 今回の調査では、そのような事象を呈する子どもが“いる”と解釈できる実感の割合も算出した（表4）。その結果、“最近増えている”という実感・ワースト10（表2）と概ね同じ項目がランクされている様子を確認できた。しかしながら、その回答率は、保育所、幼稚園では8割、小学校、中学校、高等学校では9割を超えており、ワースト1に限っては、いずれの施設・学校段階においても100%近くの回答率が示された。

## 4. 考 察

1) 今回の調査でも、調査項目の見直しからその準備を始めた。前述したように、われわれはそのような子

子どもの「からだのおかしさ」に関する保育・教育現場の実感

表2 「最近増えている」という実感・ワースト10 (保・幼・小・中・高)

〈保育所〉												(%)
1979年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年							
1. むし歯 24.2	1. アレルギー 79.9	1. アレルギー 87.5	1. すぐ「疲れた」という 76.6	1. 皮膚がかさかさ 77.6	1. 皮膚がかさかさ 65.6							
2. 背中ぐにゃ 11.3	2. 皮膚がかさかさ 76.4	2. 皮膚がかさかさ 81.3	2. アレルギー 76.0	2. アレルギー 74.6	2. すぐ「疲れた」という 63.3							
3. すぐ「疲れた」という 10.5	3. 背中ぐにゃ 67.7	3. すぐ「疲れた」という 76.6	3. 皮膚がかさかさ 73.4	3. 背中ぐにゃ 72.1	3. 保育中、じつとしていない 60.0							
4. 朝からあくび 8.1	4. すぐ「疲れた」という 63.3	4. そしゃく力が弱い 71.9	4. 背中ぐにゃ 72.7	4. すぐ「疲れた」という 68.7	3. 背中ぐにゃ 60.0							
5. 指吸い 7.2	5. そしゃく力が弱い 59.4	5. 背中ぐにゃ 70.3	5. そしゃく力が弱い 64.3	5. 保育中、じつとしていない 68.2	3. アレルギー 60.0							
6. 転んで手が出ない 7.0	6. ぜんそく 53.7	6. つまづいてよく転ぶ 54.7	6. ぜんそく 61.0	6. 床にすぐ寝転がる 64.2	6. 朝、起きられ 55.6							
7. アレルギー 5.4	7. つまづいてよく転ぶ 52.4	6. ぜんそく 54.7	7. 保育中、じつとしていない 60.4	7. そしゃく力が弱い 58.2	7. 夜、眠れない 53.3							
8. つまづいてよく転ぶ 4.9	8. 転んで手が出ない 48.0	8. すぐ疲れて歩けない 51.6	8. つまづいてよく転ぶ 58.4	8. ぜんそく 57.2	7. ぜんそく 53.3							
9. 保育中目がトロン 4.8	9. 指吸い 43.7	8. 朝からあくび 51.6	9. 朝からあくび 53.2	9. 転んで手が出ない 48.8	9. 体が硬い 47.8							
10. 鼻血 4.6	10. 朝からあくび 43.2	10. 転んで手が出ない 48.4	9. 転んで手が出ない 53.2	10. つまづいてよく転ぶ 47.3	10. 奇声を発する 45.6							
					10. 自閉的傾向 45.6							

〈幼稚園〉												(%)
	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年							
	1. アレルギー 72.3	1. アレルギー 74.8	1. アレルギー 82.7	1. アレルギー 77.1	1. アレルギー 72.4							
	2. 皮膚がかさかさ 68.0	2. すぐ「疲れた」という 73.9	2. すぐ「疲れた」という 76.5	2. すぐ「疲れた」という 72.9	2. すぐ「疲れた」という 65.7							
	3. すぐ「疲れた」という 57.8	3. 皮膚がかさかさ 68.7	3. 皮膚がかさかさ 69.1	3. 皮膚がかさかさ 66.0	3. 背中ぐにゃ 63.8							
	4. ぜんそく 54.9	4. 背中ぐにゃ 56.5	4. ぜんそく 67.3	4. 背中ぐにゃ 64.9	4. ぜんそく 62.9							
	5. 背中ぐにゃ 53.4	5. ぜんそく 53.0	5. 背中ぐにゃ 66.0	5. 床にすぐ寝転がる 60.1	5. 自閉的傾向 61.9							
	6. 腹痛・頭痛を訴える 41.7	6. つまづいてよく転ぶ 52.2	6. 保育中、じつとしていない 59.3	6. ぜんそく 59.6	6. 皮膚がかさかさ 61.0							
	7. 転んで手が出ない 41.3	7. 朝からあくび 47.0	7. 転んで手が出ない 53.7	7. 発音が気になる 56.4	7. 保育中、じつとしていない 58.1							
	7. つまづいてよく転ぶ 41.3	7. すぐ疲れて歩けない 47.0	8. つまづいてよく転ぶ 49.4	8. 保育中、じつとしていない 55.3	8. 発音が気になる 53.3							
	9. 朝からあくび 40.3	9. 転んで手が出ない 43.5	9. 腹痛・頭痛を訴える 48.8	9. つまづいてよく転ぶ 47.3	9. 床にすぐ寝転がる 50.5							
	10. 棒のぼりで足うらを使えない 39.3	10. 腹痛・頭痛を訴える 41.7	10. 朝からあくび 47.5	10. 体が硬い 46.8	10. 転んで手が出ない 46.7							
		10. そしゃく力が弱い 41.7										

どもが「いない」との実感が100%になったとき、もしくは、せめてそれに近い値が示されたときは、その項目の削除を考えている。ところが、項目の見直し作業が始められた1990年調査以降、新たな項目が追加されることはあっても、削除されることはなかった。そのような傾向は、今回も同様であり、乳幼児用は5項目が追加されて56項目に、児童・生徒用は6項目が追

加されて72項目になってしまった。

このような作業をしていると、一体、どこまで項目が増えてしまうのか、ということが不安になってくる。同時に、子どもの「からだのおかしさ」が多様に表出されていることを改めて認識させられる。

2) そのような傾向は、表3に示した結果からも読み

阿部 ほか

表2 (続き)

〈小学校〉

(%)

1978年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
1. 背中ぐにゃ 44	1. アレルギー 87.3	1. アレルギー 88.0	1. アレルギー 82.2	1. アレルギー 82.4	1. アレルギー 76.6
2. 朝からあくび 31	2. 皮膚がかさかさ 72.6	2. すぐ「疲れた」という 77.6	2. すぐ「疲れた」という 79.4	2. 背中ぐにゃ 74.5	2. 授業中、じっとしていない 72.3
3. アレルギー 26	3. すぐ「疲れた」という 71.6	3. 視力が低い 76.6	3. 授業中、じっとしていない 77.5	3. 授業中、じっとしていない 72.5	3. 背中ぐにゃ 69.3
4. 背筋がおかしい 23	4. 歯ならびが悪 い 69.9	4. 皮膚がかさかさ 71.4	4. 背中ぐにゃ 74.5	4. すぐ「疲れた」という 69.9	4. 視力が低い 67.2
5. 朝礼でバタン 22	5. 視力が低い 68.9	5. 歯ならびが悪 い 70.8	5. 歯ならびが悪 い 73.2	5. 皮膚がかさかさ 65.7	5. すぐ「疲れた」という 63.5
6. 雑巾がかたくしぼれない 20	6. 背中ぐにゃ 68.7	6. 背中ぐにゃ 69.3	6. 視力が低い 71.7	6. 症状説明でき ない 63.1	6. 絶えず何かをいじっている 62.6
6. 転んで手が出 ない 20	7. 腹痛・頭痛を 訴える 65.5	7. 腹痛・頭痛を 訴える 66.7	7. 皮膚がかさかさ 67.4	6. 視力が低い 63.1	7. 平熱 36 度未 満 60.2
8. 何でもない時 骨折 19	8. 転んで手が出 ない 62.3	8. 症状説明でき ない 63.5	8. ぜんそく 62.7	8. 平熱 36 度未 満 60.1	7. 症状説明でき ない 60.2
8. 腹のでっぱり 19	9. 症状説明でき ない 61.9	9. 平熱 36 度未 満 60.4	9. 症状説明でき ない 61.9	8. 体が硬い 60.1	9. 転んで手が出 ない 58.4
10. 懸垂ゼロ 18	10. ちょっとした ことで骨折 58.4	10. 転んで手が出 ない 55.7	10. 平熱 36 度未 満 60.9	10. ボールが目 にあたる 59.8	10. 夜、眠れない 57.4

〈中学校〉

(%)

1978年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
1. 朝礼でバタン 43	1. アレルギー 90.8	1. アレルギー 87.6	1. すぐ「疲れた」という 82.8	1. アレルギー 76.8	1. アレルギー 78.1
2. 背中ぐにゃ 37	2. すぐ「疲れた」という 83.8	2. 視力が低い 84.3	1. アレルギー 82.8	2. すぐ「疲れた」という 73.5	2. 平熱 36 度未 満 71.0
3. 朝からあくび 30	3. 視力が低い 78.1	3. すぐ「疲れた」という 71.9	3. 首、肩のこり 77.0	3. 平熱 36 度未 満 68.9	3. すぐ「疲れた」という 70.0
3. アレルギー 30	4. 腹痛・頭痛を 訴える 75.9	4. 腹痛・頭痛を 訴える 71.1	3. 不登校 77.0	4. 視力が低い 67.5	4. 夜、眠れない 69.0
5. 肩こり 27	5. 不登校 74.6	5. 平熱 36 度未 満 70.2	5. 腰痛 76.6	5. 首、肩のこり 66.2	5. 不登校 68.1
6. 背筋がおかしい 26	6. 皮膚がかさかさ 72.8	5. 不登校 70.2	6. 視力が低い 73.0	6. 不登校 64.2	6. 腰痛 63.8
6. 何でもない時 骨折 26	7. 平熱 36 度未 満 71.1	7. 首、肩のこり 69.4	7. なんとなく保 健室にくる 71.9	7. 腹痛・頭痛を 訴える 60.3	7. 腹痛・頭痛を 訴える 62.9
8. 貧血 22	8. 首、肩のこり 70.2	8. 腰痛 66.9	8. 腹痛・頭痛を 訴える 70.4	7. 腰痛 60.3	7. うつ的傾向 62.9
9. 懸垂ゼロ 21	9. 背中ぐにゃ 68.4	9. ちょっとした ことで骨折 36.6	9. 歯ならびが悪 い 63.5	9. 背中ぐにゃ 55.6	9. 首、肩のこり 61.9
9. シュラッテル 病 21	10. 症状説明でき ない 66.7	10. 歯ならびが悪 い 59.5	10. 平熱 36 度未 満 62.0	10. なんとなく保 健室にくる 55.0	9. 自閉的傾向 61.9
				10. 症状説明でき ない 55.0	

取ることができる。この表には、各施設・学校段階で“最近増えている”と実感された「からだのおかしさ」のワースト10の事象が列挙されている。これらの事象を前回の2005年調査に示された事象と比較してみると、「なんとなく保健室にくる」「ボールが目にあたる」「つまずいてよく転ぶ」「そしゃく力が弱い」の4項目が姿を消して、「絶えず何かをいじっている」「朝、起きられない」「夜、眠れない」「奇声を発する」「自閉的傾向」「うつ的傾向」の6項目が新たに加わったことが

わかる。新たに加わった事象の内、「絶えず何かをいじっている」「朝、起きられない」「夜、眠れない」「うつ的傾向」の4項目は、今回の調査で新設された事象である。また、この表に列挙された項目数も、前回の22項目から2項目増えて24項目になっている。これらのことから、子どもの「からだのおかしさ」が一層多様に出している様子を窺うことができる。

ただ、多様な表出を示す「からだのおかしさ」も、各事象から予想される問題(実体)、あるいは、その間

子どもの「からだのおかしさ」に関する保育・教育現場の実感

表2 (続き)

〈高等学校〉

(%)

1978年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
1. 腰痛 40	1. アレルギー 83.0	1. アレルギー 88.8	1. アレルギー 89.2	1. アレルギー 86.7	1. 首, 肩のこり 74.5
2. 背中ぐにゃ 31	2. すぐ「疲れた」という 75.9	2. 腰痛 80.4	2. すぐ「疲れた」という 82.0	2. 腰痛 71.4	2. うつの傾向 72.7
2. 朝礼でバタン 31	3. 腹痛・頭痛を訴える 75.0	3. 腹痛・頭痛を訴える 76.6	3. 腹痛・頭痛を訴える 80.2	3. 平熱 36 度未満 69.5	3. アレルギー 69.1
4. 肩こり 28	4. 視力が低い 67.0	4. すぐ「疲れた」という 74.8	4. 腰痛 79.0	3. 腹痛・頭痛を訴える 69.5	4. 夜, 眠れない 67.3
4. 貧血 28	5. 腰痛 66.5	5. 首, 肩のこり 73.8	5. 不登校 75.4	5. すぐ「疲れた」という 67.6	5. すぐ「疲れた」という 65.5
6. 朝からあくび 27	6. 不登校 64.2	6. 平熱 36 度未満 71.0	6. 首, 肩のこり 74.3	6. 症状説明できない 63.8	5. 腰痛 65.5
7. 神経性胃かいよう 25	7. 症状説明できない 62.3	6. 視力が低い 71.0	7. 平熱 36 度未満 71.3	7. 首, 肩のこり 61.9	7. 症状説明できない 58.2
8. 何でもない時骨折 21	8. 背中ぐにゃ 61.3	8. 不登校 68.2	8. 皮膚がカサカサ 67.1	8. 不登校 60.0	8. 平熱 36 度未満 56.4
8. アレルギー 21	9. 平熱 36 度未満 60.8	9. 皮膚がカサカサ 61.7	9. なんとなく保健室にくる 65.9	9. ぜんそく 59.0	8. 手足が冷たい 56.4
10. 脊椎異常 18	10. 首, 肩のこり 59.9	10. 症状説明できない 60.7	9. 症状説明できない 65.9	10. 背中ぐにゃ 58.1	10. 自閉的傾向 54.5
10. 授業中日がトロン 18				10. 手足が冷たい 58.1	

表3 子どもの「からだのおかしさ」の事象, ならびにその事象から予想される問題(実体)と関連するからだの機能

乳幼児用№	児童・生徒用№	事象	事象から予想される問題(実体)	事象と関連するからだの機能													
				前頭葉機能	感覚・記憶機能	防御反射機能	自律神経機能	免疫機能	内分泌機能	体温調節機能	睡眠・覚醒機能	運動神経機能	視機能	口腔機能	筋機能		
3	4	保育・授業中, じっとしていない	集中力の欠如	○													
4	5	絶えず何かをいじっている	不安・緊張傾向	○													
7	10	すぐ「疲れた」という	意欲・関心の低下, 疲労・体調不良	○		○											
8	11	朝, 起きられない	睡眠習慣の未確立・乱れ									○					
9	12	夜, 眠れない	睡眠習慣の未確立・乱れ									○					
10	13	転んで手が出ない	防御反射・反応の鈍化		○	○							○				
13	16	背中ぐにゃ	意欲・関心の低下, 疲労・体調不良, 抗重力筋の緊張不足, 体幹筋力の低下	○			○		○								○
25	28	平熱 36 度未満	体温調節不良					○	○	○	○						
27	30	手足が冷たい	体温調節不良					○	○	○							
28	31	奇声を発する	不安・緊張傾向, 大脳新皮質の機能不全	○													
31	34	腹痛・頭痛	不安・緊張傾向, 疲労・体調不良	○		○											
34	37	症状説明できない	からだに関する関心・知識不足	○	○												
35	38	首・肩のこり	不安・緊張傾向, 疲労・体調不良	○		○											
36	39	発音が気になる	口腔の発育・発達不全														○
40	43	体が硬い	柔軟性の低下														○
45	48	アレルギー	免疫異常						○								
46	49	皮膚がカサカサ	免疫異常						○								
47	50	ぜんそく	免疫異常						○								
53	56	自閉的傾向	大脳新皮質の機能不全	○													
-	57	うつの傾向	大脳新皮質の機能不全, 不安・緊張傾向, 疲労・体調不良	○		○		○									
-	59	視力が低い	視機能の発達不全・低下													○	
-	67	腰痛	体幹筋力の低下														○
-	68	不登校	意欲・関心の低下, 疲労・体調不良	○		○											
54	70	床にすぐ寝転がる	意欲・関心の低下, 疲労・体調不良, 体幹筋力の低下	○		○											

題(実体)と関連するからだの機能というレベルまで議論を進めると, 問題が無限に存在するというわけではない様子も窺える。表3に示した各事象と関連するからだの機能の欄をみると, 前頭葉機能や自律神経機能に多くのチェックを確認することができる。このよ

うな傾向は, 前回調査を踏襲しており, 「からだのおかしさ」として確認される事象は多様化の一途を辿っている一方で, 問題の実体はある程度限定されてきていることを推測させる。また, そのような推測は, それらに対する実践課題もある程度限定されるとの推測も

可能にする。そればかりか、本調査の結果について議論された「第32回子どものからだと心・全国研究会」(2010年12月開催)では、「1人の子どもがさまざまな「おかしさ」を抱えていることもある」との意見も寄せられている。そのような見解も、限られた身体機能の問題が種々の「おかしさ」を表出していることを物語っているものと考えられよう。

いずれにしても、表3に示す推測は、子どものからだに関する各方面での議論が旺盛に展開されることを期待して、現時点におけるわれわれの帰無仮説を大胆に示したに過ぎない。各方面での議論を期待したいところである。

3) ところで、今回の調査でも“最近増えている”という実感・ワースト10の結果(表2)を示したが、今回の結果の特徴として、以下の3点が指摘できる。

①1点目の特徴は、いずれの施設・学校段階においても、「アレルギー」と「すぐ「疲れた」という」がワースト5内にランクされているということである。このような結果は、1995年調査以降、常に示され続けてきた傾向であり、これらの問題がこの15年間解決されていないばかりか、増え続けている“根強い”問題事象であることを心配させる。

とくに、問題の実体を掴みにくい「すぐ「疲れた」という」については、そのような実感の多さが、どのような問題を物語っているのか、ということが積極的に議論されてきた。その結果、この問題事象の背景として、前頭葉機能や自律神経機能といった身体機能の発達不全と不調の問題に到達することができ<sup>5,6)</sup>、しかも、前者については、子どもが子どもらしく“ワクワク・ドキドキ”する体験の必要性<sup>9)</sup>が、後者については、便利で快適すぎる生活を可能な範囲で見直した“非日常的な日常生活”の必要性<sup>10)</sup>が叫ばれ、それらの効果が確認され始めていることは、この間の議論と関連の事実調査の成果といえよう。ただ、表2に示した結果は、この問題が全体としては解決するまでには至っていないことも示しているといえる。問題の実体がある程度突き止めながらも、なかなかそれを解決できないでいるのは残念なことである。問題の奥深さと複雑さを痛感させられるとともに、社会全体で真剣に考えなければならない時期にきているとも考える。

②2点目の特徴は、新設項目である「うつ傾向」が中学校のワースト7、高等学校のワースト2にランクされたことである。

子どもの「うつ」の症状は、成人期の現れ方と異なることが知られており<sup>11)</sup>、食欲低下や不眠に劣らず、過食や過眠も多く、いらいら、焦燥、不機嫌、攻撃性、反社会的行動、自傷等の自殺企図を伴いやすいとされ

ている。また、言語的表現力に乏しく、身体症状(頭痛、腹痛、腰痛、易疲労感、倦怠感)として現れやすい他、学力低下、引きこもり、不登校、家庭内暴力、性的逸脱、食行動異常などの行動面の症状が前景に立つという。このことは、「保育・授業中、じっとしていない」「すぐ「疲れた」という」「朝、起きられない」「夜、眠れない」「手足が冷たい」「腹痛・頭痛を訴える」「首、肩のこり」「不登校」等の事象が、多くの施設・学校段階のワースト10にランクされていることと相まって、最近の子どもたちの「うつ」を心配させる。

その点、子どもの「うつ」に関する報告は、近年、多数見受けられる。例えば、傳田ほか<sup>12)</sup>は、DSRS-Cを用いた調査結果を基に、小・中学生の13.0%(小学生7.8%,中学生22.8%)に抑うつ傾向がみられると報告している。また、佐藤ほか<sup>13)</sup>も、同じDSRS-Cを用いた調査結果を基に、小学生の11.6%に抑うつ傾向がみられると報告している。

他方、子どもの大脳活動の型に関する事実調査の最近の結果では、男子における「不活発(そわそわ)型」の存在とともに、1960年代には1人も観察されなかった「抑制型」が男女ともどの年齢にも1~2割程度ずつ存在することも心配されている<sup>14,15)</sup>。このタイプに判定される子どもは、日頃から必要以上の抑制が働いていて、自分の気持ちを上手に表に出すことが苦手といわれている。そのため、「まじめでよい子」「おとなしくて、何の問題も起こしそくない子」というのが、このタイプの子どもたちに寄せられる印象でもある。このようなイメージは、一般的に抱かれている「うつ」になりやすい性格特性と酷似していないだろうか。しかしながら、「うつ傾向」を呈する子どもと抑制型と判定される子どもとの関連については明らかにされておらず、この点についても各方面での議論を期待したいところである。

その際、「うつ」の中核症状の1つに睡眠障害が挙げられていることを勘案すると、長期キャンプ(30泊31日)の前後に比べて、キャンプ中は夜のメラトニン代謝が亢進して朝のメラトニン代謝が抑制するという研究報告<sup>16)</sup>は注目に値する。そもそも、メラトニンの分泌は、朝や昼に光を浴びると促進し、夜に光を浴びると抑制する。また、昼間の運動や規則的な食事摂取、時刻を意識することなどが大切であることもわかっている<sup>17)</sup>。そのため、昼間の活動や規則的な食事、さらには、種々のプログラムが用意されている中で時刻を気にするといったキャンプ生活がメラトニン・リズムに好影響を及ぼしたと考えることができるのである。ところが、キャンプが終了して約1ヵ月後には、元のリズムに戻ってしまっているという事実も見逃せない。このような結果は、子どもの周りにはリズムを整

えたくても整えにくい生活環境があることを物語っているといえよう。

このように、「早寝・早起き・朝ごはん」をいわれないキャンプではそれが実現し、毎日のように「早寝・早起き・朝ごはん」をいわれるキャンプ前後ではそれが実現できないという結果は、まったく皮肉な事実である。このことは、「早寝・早起き・朝ごはん」の呼びかけだけではどうにもならないことを物語っていると考える。したがって、この点についても、“便利で快適すぎる生活”をいまより少しだけ見直してみるとともに、昼間は太陽の下で受光しながら、子どもが子どもらしく“ワクワク・ドキドキ”できる環境、さらには、夜間の明るすぎず静かな環境を構築することこそが必要な対策といえるのではないだろうか。同時に、今回の調査で示された“新たな”問題事象として、さらなる議論を期待したいところである。その際、自由記述の記載でも多くみられた「貧困の中で生活している子がいます（病院にかかれぬ、必要経費を持ってこれぬ、食事がとれないなど）」（小学校、福島県）、「家の手伝いをするので毎日寝る時間が遅かったり、弟妹のお世話で学校に遅刻してきたりして、中学生としての学習の権利が保障されない」（中学校、京都府）「高学年では塾や親からのプレッシャーがあり、不登校になることがある」（小学校、京都府）等、“効率主義・競争原理”、“格差・貧困”等の社会的要因が複合的に絡んでいることはいまや誰の目にも明らかといえよう。したがって、それらも含めた議論の必要性も提起しておきたい。

③3点目の特徴は、“最近増えている”の回答率が前回までの“高値・安定（横ばい）”の状態から幾分減少に転じはじめた気配も窺えるということである。表2が示すように、1978年調査にワースト1にランクされた項目の回答率は、小学校が44%（背中ぐにゃ）、中学校が43%（朝礼でバタン）、高等学校が40%（腰痛）であり、当時の調査では4割強の対象者が“最近目立つ”と回答するとワースト1にランクされたことがわかる。その後、その回答率は上昇していき、最近では8割前後の対象者が“最近増えている”と回答しなければ、ワースト1にはランクされない状況が続いていた。その傾向は、今回の調査でも概ね同様といえる。ただ、ワースト1の回答率だけをみると、中学校を除く施設・学校段階で前回を下回ったことも事実である。

このような結果を受けて、われわれが考えたことは、各事象に対する心配が解消したのではなく、増加の実感が“頭打ち”になっているのではないか、ということである。実際、自由記述の記載でも「『変わらない』の欄に○をつけた部分も決して少なくない、という意味ではなく、増えたと思わないだけとらえてくださ

い」（小学校・宮城県）や「5年前と比べて回答しました。そのため、病気・ケガについては変わらないが多くなっていますが、もっと以前と比較すると変化を感じる項目もあります」（中学校、北海道）との記述も複数見受けられている。そこで、この点については、1990年調査において“いない”と“わからない”を除いた回答率は、その項目に該当する子どもが実感として“いる”ことを表している<sup>18)</sup>として集計されたことを参考に同様の集計を試みた。但し、“減っている”については、プラス方向へのからだの変化と見なすことができるため、ここでは“最近増えている”と“変わらない”との回答率を合算して、“いる”との実感割合を求めてみた（表4）。その結果と表2に示された各事象とを見比べてみると、同じ項目が多いことに気づかされる。このことは、われわれの予想通り、各問題事象を抱える子どもたちは“増えてはいないが、変わらずいる”ことを意味していると推測できる。これについては、“最近増えている”“変わらない”“減っている”“いない”“わからない”という選択肢の妥当性も含めて、次回調査での検討課題といえそうである。

4) 以上の他、調査票の最終頁に設けた自由記述を通読して印象に残った事象を羅列してみると、以下の如くである。

・“気になるケガ”に関する記述

「ここ1,2年で友だちや遊具にぶつかって額や頭部にこぶをつくる子が目立ってきています」（幼稚園、群馬県）

「まばたきが鈍いのか、いろいろなものが目に入ります（定規、はちまき、雪玉、消毒薬など）」（小学校、青森県）

「なぜ、こんなことでケガをするの？ ということが多い」（中学校、神奈川県）

・“休み明けの体調不良”に関する記述

「スポーツ少年団の遠征や対外試合が原因と思われる寝不足、疲労が特に月曜日にみられる」（小学校、青森県）

「休日と平日の生活の差が激しく、月曜日はボーッとしている子が多い」（小学校、岡山県）

「休日明けなどは、疲れた様子で2時間目くらいまでは授業にならない」（小学校、山口県）

・“痛み”に関する記述

「体の不調やケガなどによる痛みがまんできず、とにかくなんとかしてほしいという子がいる」（中学校、神奈川県）

「青あざ程度でものすごく痛がりシップを貼ってほしいと訴える子がいる反面、骨が折れているのにあまり痛がらない子が多い」（高等学校、埼玉県）

表4 「最近増えている」という実感の回答率と「変わらない」という実感の回答率の合算ワースト・10

(%)

保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
1. 保育中、じっとしていない 96.7	1. アレルギー 96.6	1. アレルギー 97.6	1. アレルギー 98.1	1. アレルギー 98.2
2. 皮膚がかさかさ 92.3	2. ぜんそく 95.3	2. 視力が低い 95.5	2. 腹痛・頭痛を訴える 96.2	2. 腹痛・頭痛を訴える 96.3
3. ぜんそく 92.2	3. 皮膚がかさかさ 90.5	3. ぜんそく 94.2	2. ぜんそく 96.2	2. 首, 肩のこり 96.3
4. すぐ「疲れた」という 88.9	4. 保育中、じっとしていない 88.6	4. 背中ぐにゃ 93.0	4. すぐ「疲れた」という 95.7	4. 夜, 眠れない 94.6
5. 背中ぐにゃ 85.6	5. 体が硬い 87.7	5. 症状説明できない 92.7	5. 視力が低い 95.3	4. ぜんそく 94.6
6. 指吸い 84.4	6. 発音が気になる 86.6	5. 皮膚がかさかさ 92.7	6. 不登校 94.8	4. 視力が低い 94.6
6. 発音が気になる 84.4	7. すぐ「疲れた」という 85.7	7. すぐ「疲れた」という 92.1	7. 平熱36度未満 93.4	7. 腰痛 92.8
6. アレルギー 84.4	8. 転んで手が出ない 83.8	8. 歯ならびが悪い 90.9	8. 皮膚がかさかさ 92.4	8. うつの傾向 92.7
9. 絶えず何かをいじっている 82.3	8. 背中ぐにゃ 83.8	9. 腹痛・頭痛を訴える 90.6	9. 夜, 眠れない 92.3	9. 症状説明できない 90.9
10. そしゃく力が弱い 82.2	10. つまずいてよく転ぶ 81.9	10. 転んで手が出ない 90.0	10. 朝, 起きられない 91.9	9. 皮膚がかさかさ 90.9
	10. 腹痛・頭痛を訴える 81.9		10. 症状説明できない 91.9	9. 貧血 90.9

・“コミュニケーション”に関する記述

「これを言ったら相手はどう思うか、これをしたかどうかを考えずに行動してしまう」(小学校, 岡山県)

「自分の言葉で相手に想いを伝える力が低下している」(小学校, 熊本県)

「自分の思いや気持ち, 考えを言葉で話せない子どもが多い」(高等学校, 京都府)

・“からだの知識”に関する記述

「からだの名前(名称)を知らない子どもが多い」(小学校, 広島県)

「語らいが少なく, 身体の器官や場所の名称を知らない, あるいは間違っていて覚えている」(高等学校, 北海道)

・“遊び”に関する記述

「入園までに, 砂遊びや泥んこ遊びをしたことがない子どもが数名いる」(幼稚園, 東京都)

「家でも公園でもゲームばかりしている」(小学校, 北海道)

・“排泄”に関する記述

「入園時にオムツがはずれない子どもが多くなってきた」(幼稚園, 群馬県)

「トイレの後, お尻をふけない子どもが増えてきた」(小学校, 北海道)

「中学生になってもおもらしをする子どもや, 夜尿の子どもがいる」(中学校, 神奈川県)

・“月経”に関する記述

「月経痛」がひどい子どもが増えている。運動部に活発に参加している子に多いのが気になる」(中学校, 佐賀県)

「月経中よりも, 月経前に不調を訴える子どもが増えた」(高等学校, 京都府)

「高校生で初経を迎えていない子どもが増えた」(高等学校, 山口県)

・“定位反応”に関する記述

「周りの音や声に過敏で全校集会に参加しにくかったり, 騒がしい自習の時間に不調を訴えたりする子どもが増えている」(小学校, 奈良県)

「危ないと思ったときに防御する動きができなかったり, 予測して行動したり加減したりすることができない」(小学校, 岡山県)

このような記述は, 子どもを観察する際の参考になるとともに, 今後の研究の手がかりが掴めてありがたい。

5) 以上のように, 今回の実感調査でも, 解決されずに残されている“根強い”実感だけでなく, “新たな”実感を確認することができた。ここに, 本研究の意義がある。このような「からだのおかしさ」は, 子どもからのSOSと受け止めることができる。もっとも, そのSOSは本研究に示された事象がすべてであるとはいえない。これまでの実感調査がそうであったように, 今回の調査結果についても, 全国各地で議論していただくことで, その解釈が一層正確になって, 子どもか

らのSOSを広く、深く受け止めることに繋がると考える。本調査の結果を基にした多くの議論をわれわれが期待する所以である。

## 5. 結 論

保育・教育現場の実感を調査した本研究の結果、以下の知見を得ることができた。

- 1) これまでの調査同様、子どものからだのマイナス方向への変化を、依然として食い止められず、一層さまざまな形で「からだのおかしさ」が表出され続けていることが予想された。とはいえ、その問題の実体はかなり限定されてきたことも推測できた。
- 2) また、「アレルギー」と「すぐ「疲れた」という」がワースト5内にランクされたのも、これまでの結果と同様であり、問題の奥深さと複雑さを痛感させられた。
- 3) 他方、中学校、高等学校では、「夜、眠れない」や「うつ傾向」等の実感が多い様子も確認できた。この点については、新たな実感として注目しておく必要があると考えられた。
- 4) さらに、「最近増えている」の回答率が減少傾向を示す背景には、“増えてはいるが、変わらずいる”実感の存在が確認された。
- 5) 以上のことから、“便利で快適すぎる生活”をいまより少しだけ見直すとともに、日中の外遊びを通じた身体活動と受光、夜間の暗闇環境を保障することが当面の実践課題であると考えられた。また、子どもの「からだのおかしさ」を克服するために、本調査結果を基にその社会的背景も含めた全国各地での議論が期待された。

## 6. 提 言

1990年調査の報告以来2005年調査の報告までは、その末尾に「提言」も掲載してきた。その結果、毎回の報告でその提言が増え続け、前回報告では「からだの課題」「家庭・地域・学校での生活、教育の課題」「行政の課題」「国際的課題」に区分し、17項目の提言が列記されるまでに至った。そこで、今回の報告では、子どもの「からだのおかしさ」を克服するために取り組むべき課題を「家庭・地域・学校での実践課題」「行政課題」「国際課題」の枠組みで整理し直した結果として、以下の諸点を提言したい。

- 1) 家庭・地域・学校での実践課題
  - ・子ども自身を自らの“からだと生活の主人公”“からだと生活の科学者”に育てよう。
  - ・テレビ・テレビゲーム漬けの生活から脱却しよう。
  - ・日中の外遊びを通じた身体活動と受光、さらには

夜間の暗闇環境を保障しよう。

- ・“ワクワク・ドキドキ”できるような熱中体験を保障しよう。
- 2) 行政課題
    - ・「国立子ども研究所（仮称）」を設立しよう。
    - ・全学校段階に養護教諭を配置し、さらに、複数配置を実現しよう。
    - ・全小学校に体育の専科教員と学校栄養士を配置しよう。
    - ・学校健康診断に裸眼視力の正確な検査を復活させるとともに、アレルギー検査を加えよう。
    - ・国連・子どもの権利委員会からの勧告に真摯に対応しよう。
  - 3) 国際課題
    - ・WHOが提唱するActive Livingのモデル国として、子どものからだと心についての問題を解決し、この面で国際的に貢献しよう。
    - ・「世界子ども研究所（仮称）」を設立し、『世界子どものからだと心白書（仮称）』を作成しよう。

**謝辞** 本研究の趣旨にご理解いただき、調査にご協力いただいた保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。

## 7. 文 献

- 1) 日本体育大学体育研究所（1981）日本の子ども・青少年のからだの調査—「子どものからだ」アンケート報告書—, 日本体育大学体育研究所所報, 5, 185-221
- 2) 正木健雄, 阿部茂明（1996）「子どものからだの調査'90」の結果報告, 日本体育大学体育研究所雑誌, 18-21, 45-59
- 3) 阿部茂明, 野田 耕, 正木健雄（1996）「子どものからだの調査'95」の結果報告, 日本体育大学紀要, 25(2), 143-160
- 4) 阿部茂明, 野井真吾, 野田 耕, 平井貴子, 正木健雄（2002）「子どものからだの調査2000」の結果報告, 日本体育大学紀要, 31(2), 121-138
- 5) 阿部茂明, 野井真吾, 野田 耕, 成田幸子, 正木健雄（2006）「子どものからだの調査2005」の結果報告—“からだのおかしさ”の教育者の実感とその実体の究明—, 日本体育大学紀要, 36(1), 55-76,
- 6) 正木健雄（2000）子どものからだの「発達不全」と「不調」: 実感されてきた“からだのおかしさ”の実体, 体育学研究, 45(2), 267-273
- 7) 阿部茂明（2000）学校教育における“からだづくり”の位置づけ, 日本体育大学紀要, 30(1), 13-24
- 8) 野井真吾（2006）子どものからだの現状からみた発達困難の今日の特徴と教育保健の課題, 日本教育保健学会年報, 13, 70-77
- 9) 井上 浩（2009）“ワクワク・ドキドキ活動”で元気な1日を！.（子どものからだと心・連絡会議編）. 子

- どものからだと心白書 2009, 46-49, ブックハウス・エイチデイ, 東京
- 10) 土田 豊 (2008) 長期キャンプ (30泊31日) で子どもの“元気”を呼び覚ませ!. (子どものからだと心・連絡会議編). 子どものからだと心白書 2008, 44-47, ブックハウス・エイチデイ, 東京
- 11) 岡田 俊 (2009) 子どもの「うつ」の診断と治療. (子どものからだと心・連絡会議編). 子どものからだと心白書 2009, 32-35, ブックハウス・エイチデイ, 東京
- 12) 傳田健三, 賀古勇輝, 佐々木幸哉, 伊藤耕一, 北川信樹, 小山 司 (2004) 小・中学生の抑うつ状態に関する調査—Birleson 自己記入式抑うつ評価尺度 (DSRS-C) を用いて—, 児童青年精神医学とその近接領域, 45(5), 424-236
- 13) 佐藤 寛, 永作 稔, 上村佳代, 石川満佐育, 本田真大, 松田侑子, 石川信一, 坂野雄二, 新井邦二郎 (2006) 一般児童における抑うつ状態の実態調査, 児童青年精神医学とその近接領域, 47(1), 57-68
- 14) 野井真吾 (2006) “学級崩壊”・“キレル”の身体的背景とその対策, 東京小児科医会報, 25(2), 72-76
- 15) 野井真吾 (2007) 子どもの体力・運動能力の現状, 日本体育大学体育研究所雑誌, 32, 1-23
- 16) 野井真吾, 鹿野晶子, 鈴木綾子, 下里彩香, 土田 豊, 山岸秀之, 西宮 肇 (2009) 長期キャンプ (30泊31日) が子どものメラトニン代謝に及ぼす影響, 発育発達研究, 41, 36-43
- 17) 内田 直 (2005) スポーツと生体リズム. 臨床スポーツ医学, 22(5), 623-627
- 18) 阿部茂明 (1990) 「子どものからだの調査'90」の結果報告. (正木編). 新版子どものからだは蝕まれている, 15-29, 柏樹社, 東京

---

<連絡先>

著者名：阿部茂明

住 所：東京都世田谷区深沢 7-1-1

所 属：日本体育大学

E-mail アドレス：abes@nittai.ac.jp

子どもの“からだのおかしさ”に関する保育・教育現場の実感

結果1 子どものからだの調査2010（保育所）（n=90）

以下の項目について、“実感”で該当する欄の番号に○をつけてください。

（数字は%）

からだの活動性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	31.1	50.0	5.6	13.3	0.0	0.0
2	保育中、目がトロンとしている子	20.0	53.3	1.1	22.2	3.3	0.0
3	保育中、じっとしていない子	60.0	36.7	2.2	0.0	1.1	0.0
4	絶えず何かをいじっている子	36.7	45.6	1.1	13.3	2.2	1.1
5	自由時間の時など、ボーッと何もしていない子	22.2	36.7	2.2	34.4	2.2	2.2
6	あまり汗をかかない子	22.2	46.7	1.1	22.2	6.7	1.1
7	すぐに「疲れた」という子	63.3	25.6	0.0	6.7	2.2	2.2
8	朝、なかなか起きられない子	55.6	24.4	0.0	5.6	14.4	0.0
9	夜、なかなか眠れない子	53.3	27.8	0.0	3.3	15.6	0.0

からだの防御性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
10	転んで手が出ない子	33.3	44.4	1.1	16.7	3.3	1.1
11	まばたきがにぶい子	3.3	34.4	1.1	28.9	30.0	2.2
12	ボールが目にあたる子	10.0	37.8	3.3	32.2	15.6	1.1

直立姿勢や動作		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
13	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにやぐにやになる子	60.0	25.6	2.2	10.0	2.2	0.0
14	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前に出っぱっている子	16.7	33.3	3.3	34.4	12.2	0.0
15	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さや出っぱり具合が対照的でない子	7.8	34.4	1.1	28.9	27.8	0.0
16	肩甲骨の左右の大きさに違いがある子	1.1	30.0	0.0	40.0	27.8	1.1
17	脊柱異常とまではいなくても、背筋がおかしい子	8.9	26.7	0.0	51.1	12.2	1.1
18	つま先立ち歩きの子	11.1	42.2	1.1	43.3	0.0	2.2
19	つまずいてよく転ぶ子	27.8	50.0	0.0	20.0	1.1	1.1
20	内またのためによく転ぶ子	10.0	32.2	1.1	51.1	5.6	0.0
21	すぐ疲れて歩けなくなる子	33.3	31.1	7.8	27.8	0.0	0.0
22	まっすぐに走れない子	14.4	43.3	5.6	30.0	6.7	0.0
23	棒のぼりで足うらを使えない子	23.3	21.1	0.0	18.9	34.4	2.2
24	力が入りすぎて、ちょうどいい力で動作ができない子	14.4	44.4	0.0	24.4	14.4	2.2

病気・けが・その他		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
25	平熱が36度未満の子	30.0	45.6	2.2	20.0	2.2	0.0
26	平熱が37度以上の子	7.8	62.2	3.3	24.4	2.2	0.0
27	手足が冷たい子	23.3	53.3	1.1	13.3	7.8	1.1
28	奇声を発する子	45.6	28.9	1.1	21.1	2.2	1.1
29	指吸いの子	23.3	61.1	7.8	7.8	0.0	0.0
30	爪かみの子	20.0	52.2	7.8	14.4	4.4	1.1
31	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	21.1	44.4	4.4	26.7	3.3	0.0
32	そしゃく力が弱く、食べ物を飲み込んでしまう子	44.4	37.8	3.3	11.1	3.3	0.0
33	口で呼吸している子	30.0	47.8	1.1	11.1	10.0	0.0
34	自分で症状を説明できない子	20.0	56.7	3.3	12.2	5.6	2.2
35	首すじがはったり、肩がこっている子	2.2	17.8	0.0	38.9	36.7	4.4

## 阿部 ほか

## 結果 1 (続き)

(数字は%)

	病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
36	発音の仕方が気になる子	34.4	50.0	2.2	5.6	5.6	2.2
37	歯ならびの悪い子	17.8	51.1	3.3	20.0	6.7	1.1
38	歯ぐきの色がおかしい子	0.0	31.1	0.0	53.3	14.4	1.1
39	聴力の弱い子	10.0	37.8	1.1	33.3	15.6	2.2
40	体が硬い子	47.8	33.3	0.0	7.8	7.8	3.3
41	異常と思われる肥満の子	6.7	38.9	4.4	48.9	0.0	1.1
42	異常と思われる痩身(やせ)の子	1.1	33.3	3.3	61.1	0.0	1.1
43	鼻炎でプールに入れない子	7.8	16.7	1.1	66.7	6.7	1.1
44	鼻血が出やすい子	17.8	44.4	5.6	25.6	6.7	0.0
45	アレルギー性疾患の子	60.0	24.4	1.1	10.0	4.4	0.0
46	皮膚がかさかさの子	65.6	26.7	1.1	4.4	2.2	0.0
47	ぜんそくの子	53.3	38.9	0.0	7.8	0.0	0.0
48	胸郭異常の子	0.0	31.1	0.0	56.7	12.2	0.0
49	ちょっとしたことで骨折する子	12.2	25.6	0.0	57.8	4.4	0.0
50	骨折しても痛みを訴えない子	0.0	13.3	0.0	68.9	16.7	1.1
51	夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	3.3	12.2	1.1	50.0	31.1	2.2
52	オスグッド・シュラッテル病(膝の骨の異常発達で痛む)の子	1.1	8.9	1.1	68.9	15.6	4.4
53	自閉的傾向がある子	45.6	25.6	0.0	24.4	3.3	1.1
54	床にすぐ寝転がる子	42.2	30.0	0.0	26.7	0.0	1.1
55	あまり水分をとらない子	21.1	54.4	0.0	21.1	1.1	2.2
56	あまりトイレに行かない子	8.9	52.2	0.0	34.4	4.4	0.0

子どもの“からだのおかしさ”に関する保育・教育現場の実感

結果2 子どものからだの調査2010（幼稚園）（n=105）

以下の項目について、“実感”で該当する欄の番号に○をつけてください。

（数字は％）

からだの活動性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	29.5	46.7	7.6	12.4	1.9	1.9
2	保育中、目がトロンとしている子	14.3	55.2	4.8	23.8	1.0	1.0
3	保育中、じっとしていない子	58.1	30.5	3.8	6.7	0.0	1.0
4	絶えず何かをいじっている子	37.1	35.2	4.8	19.0	2.9	1.0
5	自由時間の時など、ボーッとして何もしていない子	21.0	39.0	7.6	31.4	0.0	1.0
6	あまり汗をかかない子	11.4	50.5	6.7	19.0	10.5	1.9
7	すぐに「疲れた」という子	65.7	20.0	5.7	8.6	0.0	0.0
8	朝、なかなか起きられない子	45.7	22.9	2.9	4.8	23.8	0.0
9	夜、なかなか眠れない子	37.1	20.0	2.9	3.8	34.3	1.9

からだの防御性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
10	転んで手が出ない子	46.7	37.1	9.5	6.7	0.0	0.0
11	まばたきがにびい子	4.8	41.0	1.0	23.8	28.6	1.0
12	ボールが目にあたる子	14.3	42.9	5.7	24.8	12.4	0.0

直立姿勢や動作		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
13	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにやぐにやになる子	63.8	20.0	4.8	10.5	0.0	1.0
14	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前に出っぼっている子	13.3	47.6	5.7	28.6	3.8	1.0
15	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さや出っぼり具合が対照的でない子	8.6	26.7	2.9	29.5	32.4	0.0
16	肩甲骨の左右の大きさに違いがある子	1.9	22.9	1.0	31.4	41.9	1.0
17	脊柱異常とまではいなくても、背筋がおかしい子	8.6	23.8	1.0	41.0	24.8	1.0
18	つま先立ち歩きの子	14.3	38.1	1.0	39.0	4.8	2.9
19	つまずいてよく転ぶ子	42.9	39.0	3.8	12.4	1.9	0.0
20	内またのためによく転ぶ子	11.4	40.0	2.9	33.3	11.4	1.0
21	すぐ疲れて歩けなくなる子	28.6	37.1	5.7	26.7	1.0	1.0
22	まっすぐに走れない子	15.2	50.5	1.9	28.6	3.8	0.0
23	棒のぼりで足うらを使えない子	41.9	18.1	4.8	3.8	29.5	1.9
24	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	26.7	38.1	3.8	17.1	13.3	1.0

病気・けが・その他		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
25	平熱が36度未満の子	33.3	33.3	2.9	10.5	20.0	0.0
26	平熱が37度以上の子	2.9	43.8	4.8	27.6	21.0	0.0
27	手足が冷たい子	18.1	53.3	1.9	10.5	14.3	1.9
28	奇声を発する子	35.2	40.0	1.9	22.9	0.0	0.0
29	指吸いの子	18.1	54.3	7.6	17.1	1.9	1.0
30	爪かみの子	16.2	58.1	10.5	13.3	1.9	0.0
31	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	30.5	51.4	1.9	15.2	1.0	0.0
32	そしゃく力が弱く、食べ物を飲み込んでしまう子	41.0	34.3	1.9	17.1	5.7	0.0
33	口で呼吸している子	36.2	35.2	4.8	12.4	10.5	1.0
34	自分で症状を説明できない子	24.8	56.2	5.7	11.4	1.9	0.0
35	首すじがはったり、肩がこっている子	1.0	24.8	1.0	29.5	42.9	1.0
36	発音の仕方が気になる子	53.3	33.3	5.7	6.7	1.0	0.0

## 阿部 ほか

## 結果2 (続き)

(数字は%)

	病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
37	歯ならびの悪い子	30.5	45.7	6.7	15.2	1.9	0.0
38	歯ぐきの色がおかしい子	1.9	41.0	2.9	32.4	21.0	1.0
39	聴力の弱い子	9.5	54.3	1.0	23.8	9.5	1.9
40	体が硬い子	44.8	42.9	5.7	3.8	2.9	0.0
41	異常と思われる肥満の子	8.6	46.7	5.7	36.2	2.9	0.0
42	異常と思われる痩身(やせ)の子	2.9	41.0	4.8	47.6	2.9	1.0
43	鼻炎でプールに入れない子	4.8	30.5	3.8	53.3	6.7	1.0
44	鼻血が出やすい子	24.8	50.5	6.7	16.2	1.9	0.0
45	アレルギー性疾患の子	72.4	23.8	1.9	1.9	0.0	0.0
46	皮膚がかさかさの子	61.0	29.5	3.8	3.8	1.9	0.0
47	ぜんそくの子	62.9	32.4	1.9	1.9	1.0	0.0
48	胸郭異常の子	2.9	30.5	1.9	45.7	16.2	2.9
49	ちょっとしたことで骨折する子	24.8	27.6	1.0	43.8	2.9	0.0
50	骨折しても痛みを訴えない子	3.8	22.9	0.0	62.9	10.5	0.0
51	夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	5.7	18.1	1.9	32.4	41.9	0.0
52	オスグッド・シュラッテル病(膝の骨の異常発達で痛む)の子	2.9	10.5	1.9	55.2	29.5	0.0
53	自閉的傾向がある子	61.9	19.0	1.9	12.4	2.9	1.9
54	床にすぐ寝転がる子	50.5	26.7	4.8	17.1	1.0	0.0
55	あまり水分をとらない子	16.2	48.6	5.7	19.0	10.5	0.0
56	あまりトイレに行かない子	14.3	52.4	5.7	20.0	6.7	1.0

子どもの“からだのおかしさ”に関する保育・教育現場の実感

結果3 子どものからだの調査2010（小学校）（n=329）

以下の項目について、“実感”で該当する欄の番号に○をつけてください。

（数字は％）

からだの活動性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	38.3	48.9	3.3	3.0	4.9	1.5
2	授業中、目がトロンとしている子	28.9	49.2	4.0	5.2	10.0	2.7
3	授業中、居眠りをする子	23.7	41.6	4.6	18.8	9.1	2.1
4	授業中、じっとしていない子	72.3	17.3	2.4	4.3	2.4	1.2
5	絶えず何かをいじっている子	62.6	26.4	0.9	2.4	5.8	1.8
6	保健室に眠りにくる子	17.6	39.2	6.1	31.6	4.6	0.9
7	なんとなく保健室にくる子	34.3	48.6	4.3	10.6	1.5	0.6
8	休み時間の時など、ボーッと何もしていない子	20.4	42.6	5.8	16.7	12.2	2.4
9	あまり汗をかかない子	20.7	39.8	2.4	5.5	29.2	2.4
10	すぐに「疲れた」という子	63.5	28.6	2.4	1.5	2.4	1.5
11	朝、なかなか起きられない子	46.2	37.7	2.7	1.5	10.3	1.5
12	夜、なかなか眠れない子	57.4	27.4	1.2	1.8	10.3	1.8

からだの防御性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
13	転んで手が出ない子	58.4	31.6	3.3	4.3	2.1	0.3
14	まばたきがにぶい子	21.3	38.9	1.2	6.1	31.6	0.9
15	ボールが目にあたる子	55.0	34.3	1.5	5.8	2.7	0.6

直立姿勢や動作		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
16	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにやぐにやになる子	69.3	23.7	0.9	1.5	3.0	1.5
17	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前に出っぱっている子	29.8	49.5	1.5	5.2	12.5	1.5
18	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さや出っぱり具合が対照的でない子	17.3	44.7	1.8	8.8	26.7	0.6
19	肩甲骨の左右の大きさに違いがある子	6.7	38.6	1.8	12.8	38.9	1.2
20	脊柱異常とまではいかななくても、背筋がおかしい子	22.5	42.9	2.1	11.2	19.8	1.5
21	つま先立ち歩きの子	10.3	32.5	1.2	26.1	27.1	2.7
22	つまずいてよく転ぶ子	45.6	37.4	1.8	9.1	4.9	1.2
23	内またのためによく転ぶ子	7.6	35.3	1.8	22.8	29.8	2.7
24	すぐ疲れて歩けなくなる子	25.8	44.1	1.8	15.8	10.9	1.5
25	まっすぐに走れない子	18.8	39.8	1.2	16.7	21.6	1.8
26	棒のぼりで足うらを使えない子	29.5	19.1	0.3	3.6	45.6	1.8
27	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	34.3	26.4	0.9	8.2	28.6	1.5

病気・けが・その他		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
28	平熱が36度未満の子	60.2	28.9	0.9	1.2	7.6	1.2
29	平熱が37度以上の子	12.8	45.3	12.8	12.8	14.9	1.5
30	手足が冷たい子	34.7	35.3	0.6	3.6	24.6	1.2
31	奇声を発する子	53.2	28.0	0.6	12.8	4.6	0.9
32	指吸いの子	15.5	42.9	4.0	18.8	17.0	1.8
33	爪かみの子	25.5	51.4	2.1	6.4	11.9	2.7
34	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	52.0	38.6	3.6	4.3	0.6	0.9
35	そしゃく力が弱く、食べ物を飲み込んでしまう子	35.3	30.1	0.9	5.8	26.1	1.8
36	口で呼吸している子	39.2	35.9	0.6	3.0	19.5	1.8
37	自分で症状を説明できない子	60.2	32.5	2.4	2.7	0.9	1.2
38	首すじがはったり、肩がこっている子	42.2	32.5	0.9	6.1	16.7	1.5

## 阿部 ほか

## 結果3 (続き)

(数字は%)

病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
39 発音の仕方が気になる子	35.3	47.4	1.5	5.8	7.6	2.4
40 歯ならびの悪い子	53.8	37.1	3.3	0.9	4.0	0.9
41 歯ぐきの色がおかしい子	19.1	50.2	0.9	8.8	18.5	2.4
42 聴力の弱い子	8.2	62.0	1.5	17.6	8.5	2.1
43 体が硬い子	56.5	32.2	0.6	0.6	8.8	1.2
44 異常と思われる肥満の子	23.1	49.8	7.0	15.5	3.0	1.5
45 異常と思われる痩身(やせ)の子	17.9	52.0	2.7	22.8	3.0	1.5
46 鼻炎でプールに入れない子	9.4	38.9	3.3	42.9	4.6	0.9
47 鼻血が出やすい子	31.0	57.1	2.1	5.8	2.7	1.2
48 アレルギー性疾患の子	76.6	21.0	0.3	0.3	1.2	0.6
49 皮膚がかさかさの子	55.3	37.4	2.1	2.1	1.8	1.2
50 ぜんそくの子	49.5	44.7	2.4	2.1	0.6	0.6
51 胸郭異常の子	2.4	48.3	6.7	28.6	12.5	1.5
52 ちょっとしたことでも骨折する子	51.1	32.8	1.8	12.2	0.9	1.2
53 骨折しても痛みを訴えない子	17.6	30.4	1.5	36.5	13.1	0.9
54 夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	3.0	26.1	1.2	28.3	40.1	1.2
55 オスグッド・シュラッテル病(膝の骨の異常発達で痛む)の子	18.5	42.9	2.7	22.5	11.6	1.8
56 自閉的傾向がある子	56.8	25.8	0.3	6.1	5.2	5.8
57 うつ傾向がある子	26.1	29.5	0.3	21.3	17.3	5.5
58 朝礼の時などにうずくまったり、倒れる子	10.3	53.2	8.2	22.5	4.3	1.5
59 視力の低い子	67.2	28.3	1.2	0.6	1.5	1.2
60 左右の視力がひどくアンバランスな子	44.1	45.0	1.2	4.6	4.0	1.2
61 貧血の子	7.3	50.5	3.0	20.1	17.9	1.2
62 高血圧や動脈硬化の子	0.3	16.4	0.9	46.5	34.3	1.5
63 心臓病の子	5.5	65.0	1.2	20.1	7.3	0.9
64 糖尿病の子	1.8	24.3	0.6	60.2	11.9	1.2
65 神経性胃かいようや十二指腸かいようの子	3.6	16.1	0.9	63.8	14.6	0.9
66 脚気の子	0.0	12.5	1.5	66.0	19.1	0.9
67 腰痛の子	19.8	31.6	1.8	31.9	13.7	1.2
68 不登校(登校拒否も含む)の子	30.4	35.6	4.0	28.6	0.9	0.6
69 保健室登校の子	20.4	26.7	3.6	46.8	1.5	0.9
70 床にすぐ寝転がる子	48.6	25.5	2.4	14.6	7.9	0.9
71 あまり水分をとらない子	21.0	32.2	1.5	13.7	29.8	1.8
72 あまりトイレに行かない子	17.3	34.3	0.9	12.2	34.0	1.2

子どもの“からだのおかしさ”に関する保育・教育現場の実感

結果4 子どものからだの調査2010（中学校）（n=210）

以下の項目について、“実感”で該当する欄の番号に○をつけてください。

（数字は％）

からだの活動性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	26.7	59.5	2.9	1.9	8.1	1.0
2	授業中、目がトロンとしている子	31.4	50.0	3.3	0.5	13.8	1.0
3	授業中、居眠りをする子	39.0	43.3	4.8	1.0	10.5	1.4
4	授業中、じっとしていない子	56.7	26.2	3.3	5.7	6.2	1.9
5	絶えず何かをいじっている子	44.8	34.8	3.8	5.2	10.5	1.0
6	保健室に眠りにくる子	26.7	44.8	8.1	16.7	2.9	1.0
7	なんとなく保健室にくる子	40.5	46.7	7.1	3.3	1.9	0.5
8	休み時間の時など、ボーッとして何もしていない子	18.6	48.6	2.4	6.7	21.4	2.4
9	あまり汗をかかない子	26.2	46.2	1.4	2.4	21.9	1.9
10	すぐに「疲れた」という子	70.0	25.7	1.4	0.0	1.9	1.0
11	朝、なかなか起きられない子	53.8	38.1	2.4	0.0	4.8	1.0
12	夜、なかなか眠れない子	69.0	23.3	1.4	0.0	4.8	1.4

からだの防御性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
13	転んで手が出ない子	29.5	49.0	2.9	8.6	9.5	0.5
14	まばたきがにがしい子	11.9	43.3	2.4	11.0	30.5	1.0
15	ボールが目にあたる子	40.0	41.9	3.3	6.7	7.6	0.5

直立姿勢や動作		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
16	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにやぐにやになる子	55.7	33.3	1.0	3.8	5.2	1.0
17	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前に出っぱっている子	18.6	48.6	3.3	6.2	21.9	1.4
18	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さや出っぱり具合が対照的でない子	17.1	46.2	2.4	6.7	26.7	1.0
19	肩甲骨の左右の大きさに違いがある子	8.1	45.2	1.0	10.0	34.8	1.0
20	脊柱異常とまではいなくても、背筋がおかしい子	28.1	45.7	2.9	9.0	13.3	1.0
21	つま先立ち歩きの子	6.2	30.0	2.4	31.0	29.0	1.4
22	つまずいてよく転ぶ子	17.6	47.6	2.4	15.7	15.7	1.0
23	内またのためによく転ぶ子	9.5	31.9	3.3	25.7	29.0	0.5
24	すぐ疲れて歩けなくなる子	19.0	38.1	1.4	25.2	15.7	0.5
25	まっすぐに走れない子	9.5	31.9	1.0	25.2	31.0	1.4
26	棒のぼりで足うらを使えない子	9.5	13.8	0.0	2.9	71.4	2.4
27	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	19.0	31.0	1.0	8.6	39.0	1.4

病気・けが・その他		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
28	平熱が36度未満の子	71.0	22.4	1.4	0.5	4.8	0.0
29	平熱が37度以上の子	16.7	44.8	14.3	12.9	11.0	0.5
30	手足が冷たい子	51.9	34.3	0.5	1.0	12.4	0.0
31	奇声を発する子	46.2	26.7	2.4	18.1	6.7	0.0
32	指吸いの子	3.8	22.9	3.8	48.1	21.0	0.5
33	爪かみの子	14.8	43.8	6.2	14.8	19.0	1.4
34	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	62.9	33.3	1.9	0.5	1.0	0.5
35	そしゃく力が弱く、食べ物を飲み込んでしまう子	18.6	30.0	0.5	8.1	42.4	0.5
36	口で呼吸している子	30.0	38.1	2.4	6.2	22.4	1.0
37	自分で症状を説明できない子	59.0	32.9	1.9	2.4	3.3	0.5
38	首すじがはったり、肩がこっている子	61.9	29.0	0.5	1.4	6.7	0.5
39	発音の仕方が気になる子	18.1	50.5	3.8	11.4	15.2	1.0

## 阿部 ほか

## 結果4 (続き)

(数字は%)

病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
40 歯ならびの悪い子	44.8	41.4	9.0	0.0	4.3	0.5
41 歯ぐきの色がおかしい子	27.1	51.0	2.9	4.3	13.3	1.4
42 聴力の弱い子	8.1	70.0	2.4	8.1	10.5	1.0
43 体が硬い子	57.1	28.6	1.0	1.0	11.4	1.0
44 異常と思われる肥満の子	22.4	57.6	7.1	9.5	2.9	0.5
45 異常と思われる痩身(やせ)の子	24.8	49.5	1.9	19.0	3.8	1.0
46 鼻炎でプールに入れない子	7.1	36.2	3.8	29.5	21.0	2.4
47 鼻血が出やすい子	30.0	61.0	1.4	2.9	4.3	0.5
48 アレルギー性疾患の子	78.1	20.0	1.0	0.0	0.5	0.5
49 皮膚がかさかさの子	51.4	41.0	2.4	0.5	4.3	0.5
50 ぜんそくの子	41.9	54.3	2.4	0.0	1.0	0.5
51 胸郭異常の子	5.2	58.1	4.8	19.0	11.9	1.0
52 ちょっとしたことでも骨折する子	57.6	33.3	1.4	2.9	4.3	0.5
53 骨折しても痛みを訴えない子	19.0	31.9	3.8	30.5	13.3	1.4
54 夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	5.7	21.9	2.4	32.4	36.7	1.0
55 オスグッド・シュラッテル病(膝の骨の異常発達で痛む)の子	36.2	47.6	5.2	4.8	5.7	0.5
56 自閉的傾向がある子	61.9	28.6	0.5	3.3	5.2	0.5
57 うつの傾向がある子	62.9	22.9	0.5	4.8	8.6	0.5
58 朝礼の時などにうずくまったり、倒れる子	9.5	60.0	7.1	14.3	8.6	0.5
59 視力の低い子	60.5	34.8	1.0	0.0	3.8	0.0
60 左右の視力がひどくアンバランスな子	40.0	49.0	1.0	2.4	7.6	0.0
61 貧血の子	24.8	60.5	3.8	4.3	6.7	0.0
62 高血圧や動脈硬化の子	2.9	31.9	0.5	24.8	39.5	0.5
63 心臓病の子	4.8	73.3	1.0	9.5	10.0	1.4
64 糖尿病の子	7.6	40.0	1.0	39.5	10.5	1.4
65 神経性胃かいようや十二指腸かいようの子	17.1	32.9	1.4	32.9	14.8	1.0
66 脚気の子	0.0	14.3	2.9	56.7	25.2	1.0
67 腰痛の子	63.8	27.6	0.5	1.4	5.7	1.0
68 不登校(登校拒否も含む)の子	68.1	26.7	1.9	2.9	0.0	0.5
69 保健室登校の子	34.8	33.8	2.9	24.8	2.9	1.0
70 床にすぐ寝転がる子	34.3	25.2	1.4	25.7	12.9	0.5
71 あまり水分をとらない子	33.8	30.5	3.3	5.7	26.2	0.5
72 あまりトイレに行かない子	32.4	30.5	1.4	4.8	30.5	0.5

子どもの“からだのおかしさ”に関する保育・教育現場の実感

結果5 子どものからだの調査2010（高等学校）（n=55）

以下の項目について、“実感”で該当する欄の番号に○をつけてください。

（数字は％）

からだの活動性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	27.3	47.3	3.6	5.5	16.4	0.0
2	授業中、目がトロンとしている子	25.5	41.8	3.6	9.1	20.0	0.0
3	授業中、居眠りをする子	30.9	45.5	3.6	7.3	12.7	0.0
4	授業中、じっとしていない子	27.3	38.2	3.6	12.7	16.4	1.8
5	絶えず何かをいじっている子	32.7	30.9	1.8	10.9	23.6	0.0
6	保健室に眠りにくる子	29.1	49.1	9.1	12.7	0.0	0.0
7	なんとなく保健室にくる子	34.5	45.5	9.1	10.9	0.0	0.0
8	休み時間の時など、ボーッとして何もしていない子	25.5	38.2	3.6	10.9	21.8	0.0
9	あまり汗をかかない子	38.2	40.0	1.8	3.6	16.4	0.0
10	すぐに「疲れた」という子	65.5	23.6	1.8	5.5	1.8	1.8
11	朝、なかなか起きられない子	47.3	41.8	0.0	3.6	7.3	0.0
12	夜、なかなか眠れない子	67.3	27.3	0.0	3.6	1.8	0.0

からだの防御性		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
13	転んで手が出ない子	29.1	40.0	1.8	16.4	12.7	0.0
14	まばたきがにぶい子	9.1	41.8	1.8	20.0	27.3	0.0
15	ボールが目にあたる子	38.2	41.8	1.8	10.9	7.3	0.0

直立姿勢や動作		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
16	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにやぐにやになる子	47.3	32.7	1.8	7.3	10.9	0.0
17	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前に出っぱっている子	14.5	38.2	5.5	10.9	30.9	0.0
18	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さや出っぱり具合が対照的でない子	23.6	36.4	5.5	7.3	27.3	0.0
19	肩甲骨の左右の大きさに違いがある子	18.2	27.3	0.0	10.9	43.6	0.0
20	脊柱異常とまではいなくても、背筋がおかしい子	32.7	30.9	1.8	9.1	25.5	0.0
21	つま先立ち歩きの子	1.8	20.0	7.3	30.9	38.2	1.8
22	つまずいてよく転ぶ子	23.6	30.9	3.6	20.0	21.8	0.0
23	内またのためによく転ぶ子	5.5	27.3	5.5	29.1	32.7	0.0
24	すぐ疲れて歩けなくなる子	18.2	36.4	3.6	23.6	18.2	0.0
25	まっすぐに走れない子	7.3	20.0	1.8	27.3	43.6	0.0
26	棒のぼりで足うちを使えない子	1.8	5.5	0.0	9.1	83.6	0.0
27	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	14.5	23.6	0.0	21.8	38.2	1.8

病気・けが・その他		最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
28	平熱が36度未満の子	56.4	29.1	7.3	0.0	7.3	0.0
29	平熱が37度以上の子	18.2	34.5	10.9	21.8	14.5	0.0
30	手足が冷たい子	56.4	27.3	0.0	0.0	16.4	0.0
31	奇声を発する子	12.7	16.4	5.5	50.9	14.5	0.0
32	指吸いの子	3.6	3.6	1.8	72.7	18.2	0.0
33	爪かみの子	3.6	49.1	5.5	18.2	23.6	0.0
34	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	52.7	43.6	1.8	1.8	0.0	0.0
35	そしゃく力が弱く、食べ物を飲み込んでしまう子	20.0	21.8	0.0	9.1	49.1	0.0
36	口で呼吸している子	32.7	30.9	3.6	3.6	29.1	0.0

## 阿部 ほか

## 結果 5 (続き)

(数字は%)

	病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
37	自分で症状を説明できない子	58.2	32.7	1.8	7.3	0.0	0.0
38	首すじがはったり、肩がこっている子	74.5	21.8	0.0	0.0	3.6	0.0
39	発音の仕方が気になる子	20.0	36.4	1.8	21.8	20.0	0.0
40	歯ならびの悪い子	29.1	49.1	14.5	1.8	5.5	0.0
41	歯ぐきの色がおかしい子	32.7	36.4	12.7	5.5	12.7	0.0
42	聴力の弱い子	10.9	65.5	7.3	9.1	7.3	0.0
43	体が硬い子	52.7	30.9	0.0	3.6	12.7	0.0
44	異常と思われる肥満の子	25.5	49.1	9.1	14.5	1.8	0.0
45	異常と思われる痩身(やせ)の子	27.3	40.0	14.5	14.5	3.6	0.0
46	鼻炎でプールに入れない子	5.5	9.1	1.8	25.5	56.4	1.8
47	鼻血が出やすい子	27.3	50.9	5.5	10.9	5.5	0.0
48	アレルギー性疾患の子	69.1	29.1	1.8	0.0	0.0	0.0
49	皮膚がかさかさの子	52.7	38.2	3.6	1.8	1.8	1.8
50	ぜんそくの子	45.5	49.1	3.6	0.0	1.8	0.0
51	胸郭異常の子	14.5	49.1	7.3	16.4	12.7	0.0
52	ちょっとしたことで骨折する子	47.3	38.2	1.8	7.3	5.5	0.0
53	骨折しても痛みを訴えない子	10.9	18.2	1.8	50.9	18.2	0.0
54	夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	3.6	12.7	1.8	32.7	49.1	0.0
55	オスグッド・シュラッテル病(膝の骨の異常発達で痛む)の子	7.3	50.9	7.3	16.4	18.2	0.0
56	自閉的傾向がある子	54.5	32.7	1.8	9.1	1.8	0.0
57	うつの傾向がある子	72.7	20.0	0.0	7.3	0.0	0.0
58	朝礼の時などにうずくまったり、倒れる子	9.1	52.7	9.1	20.0	9.1	0.0
59	視力の低い子	49.1	45.5	3.6	0.0	1.8	0.0
60	左右の視力がひどくアンバランスな子	34.5	50.9	3.6	3.6	7.3	0.0
61	貧血の子	30.9	60.0	3.6	1.8	3.6	0.0
62	高血圧や動脈硬化の子	7.3	21.8	1.8	21.8	47.3	0.0
63	心臓病の子	10.9	65.5	7.3	7.3	9.1	0.0
64	糖尿病の子	10.9	38.2	3.6	40.0	7.3	0.0
65	神経性胃かいようや十二指腸かいようの子	32.7	30.9	7.3	20.0	9.1	0.0
66	脚気の子	1.8	5.5	0.0	67.3	25.5	0.0
67	腰痛の子	65.5	27.3	1.8	1.8	3.6	0.0
68	不登校(登校拒否も含む)の子	49.1	36.4	3.6	9.1	1.8	0.0
69	保健室登校の子	23.6	21.8	5.5	47.3	1.8	0.0
70	床にすぐ寝転がる子	27.3	21.8	3.6	40.0	7.3	0.0
71	あまり水分をとらない子	34.5	34.5	3.6	3.6	23.6	0.0
72	あまりトイレに行かない子	27.3	29.1	0.0	5.5	38.2	0.0